

戦略的CSR：サステナブル活動のイニシアティブ 「うむしん11」へのご招待

■ 貴社のこのようなお悩み、解決します。

今日の企業価値評価において、投資家や顧客、そして未来の仲間となる採用候補者までもが、企業のサステナビリティへの姿勢を厳しく見ています。しかし、日々の業務の中で、効果的なサステナビリティ活動を企画し、さらにそれを「発信のための素材」として昇華させることは容易ではありません。

✓「サステナビリティ活動の重要性は理解しているが、
対外的にどう発信すれば良いかわからない」

✓「活動が単発で終わり、企業のストーリーとして
繋がらない」

✓「ウェブサイトや報告書に掲載できる、
魅力的で具体的なコンテンツ（写真・実績）がない」



弊社の提供する活動（うむしん11）の従来との比較

従来の研修サービスは、単なる「寄付」や「アリバイ作り」に留まり、一時的な単発の社内に限った活動が中心でした。うむしんの提供する研修は、複数ステークホルダーが関わる包括的なサステナブル活動のイニシアティブへのご招待であり、御社に「戦略的CSR」の観点からの本質的な価値をもたらします。

従来

とりあえず良く見える「寄付」

やったことにする「アリバイ」作り

「単発」で終了

「社内のみ」の内向きの活動

戦略的CSRとしての「うむしん11」の価値

対ステークホルダー

社内環境の向上

採用・人事強化

営業力の向上

戦略的CSRとは

戦略的CSRとは、社会課題解決を単なる慈善活動でなく経営戦略に統合し、社会貢献と事業利益を両立させる取り組みを指す。ブランド価値向上、顧客・投資家の信頼醸成、ESG投資獲得などを通じ、持続的な競争優位と企業価値向上を実現するもの。

定義

企業が社会的責任や活動を「寄付や慈善活動」に留めず、事業戦略と統合して持続的な競争優位や企業価値向上に結びつけるCSR。

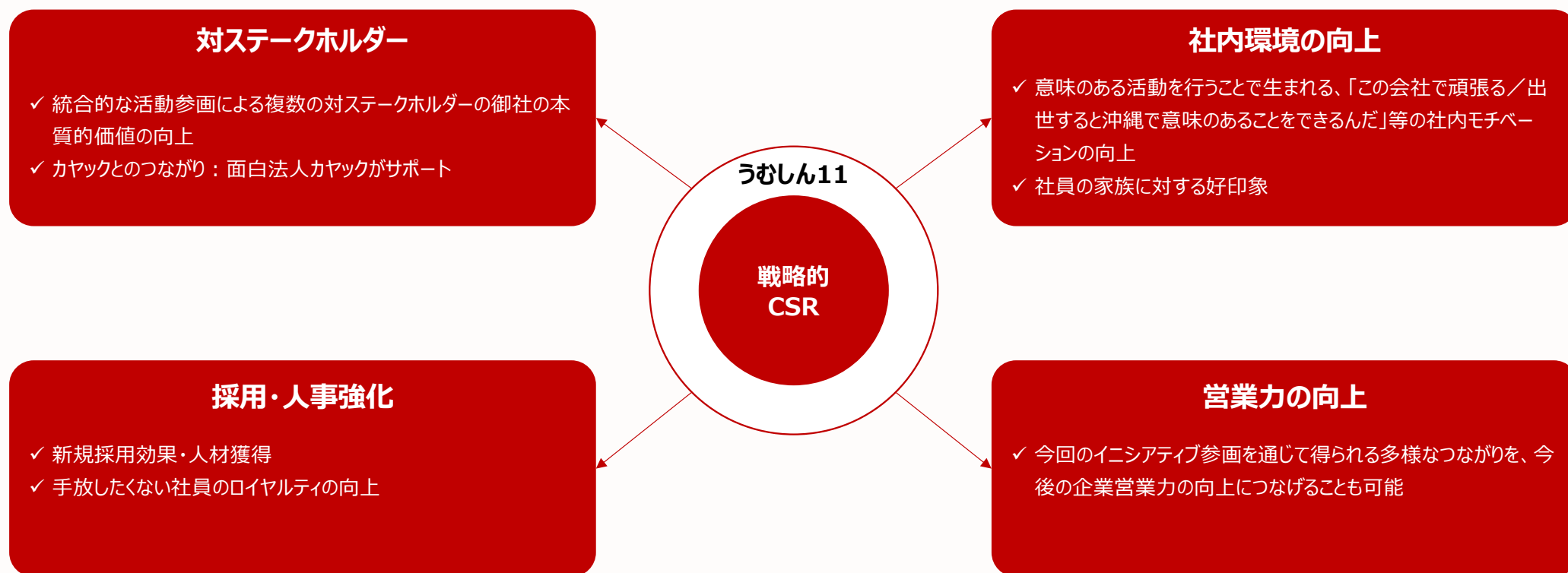
特徴

- ✓ **社会課題解決と事業利益の両立**
 - ・ 例：環境対応製品の開発 → CO₂削減と新市場創出
- ✓ **長期的なブランド強化**
 - ・ 社会貢献が企業イメージ向上と顧客ロイヤルティにつながる
- ✓ **ステークホルダーとの関係深化**
 - ・ 投資家・顧客・従業員・地域社会の信頼醸成

項目	従来型CSR	戦略的CSR
主体	寄付・慈善活動	経営戦略に組み込み
目的	社会貢献	社会貢献＋企業価値向上
時間軸	短期的	中長期的・持続可能

「うむしん11」の戦略的CSRとしての価値

従来の研修サービスは、単なる「寄付」や「アリバイ作り」に留まり、一時的な単発の社内に限った活動が中心でした。うむしんの提供する研修は、複数ステークホルダーが関わる包括的なサステナブル活動のイニシアティブへのご招待であり、御社に「戦略的CSR」の観点からの本質的な価値をもたらします。



戦略的CSR：サステナブル活動のイニシアティブ「うむしん11」へのご招待

本イニシアティブが提供する3つのコアバリュー

本イニシアティブは単なるCSR活動を超え、企業の未来への投資となる3価値を提供。魅力的な発信素材で共感を得る広報価値、協働体験による組織力強化、自然体験を通じた創造力・デザイン思考育成を実現します。

【広報】共感を呼ぶサステナコンテンツの創出



- ✓ カメラマンが同行し、ウェブサイトや統合報告書、SNSで映える高品質な写真・動画素材を納品します。
- ✓ 社員の真剣な眼差しやチームの一体感など、リアルな活動風景がステークホルダーの共感を呼びます。

【組織開発】社員エンゲージメントと一体感の醸成



- ✓ 日常業務を離れ、共通の目的に向かって汗を流す体験は、役職や部署を超えた強固な一体感を育みます。
- ✓ 環境問題の最前線を体感することで、参加者のサステナビリティへの当事者意識を高めます。

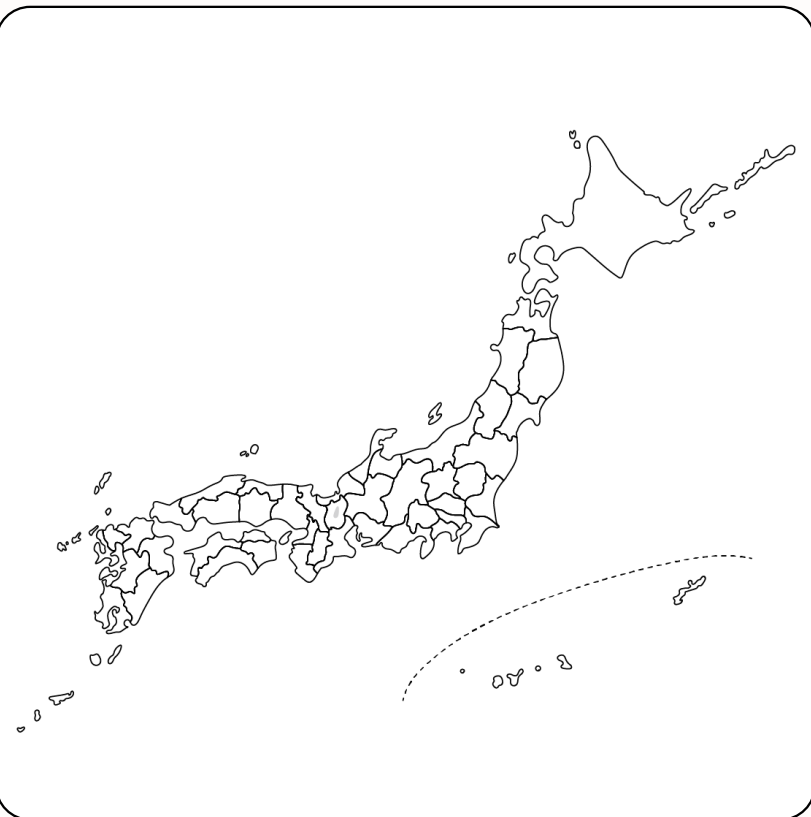
【人材育成】デザイン思考の涵養



- ✓ 固定化された思考から解放される環境で、新たな視点やイノベーションの種が生まれます。
- ✓ 自然の中から課題を発見し、解決策を考えるプロセスは、まさに実践的なデザイン思考トレーニングです。

「うむしん11」の展開とその意義

「うむしん11」は、日本全国の各自治体区分ごとに、各業種・各エリアで1社限定、完全招待制で選ばれるプレミアムイニシアティブです。これまでに貴社が得てきた注目やネットワークを継続的な価値に変え、社会的評価や広報効果を最大化する“選ばれし企業”だけの特別なステージをご提供します。



✓ 各業種・各エリアで**1社限定**

- ✓ 競合他社と差別化可能な取り組みをご提供。

✓ **完全招待制**による選抜

- ✓ 信頼できる企業様からの招待のみによる「うむしん11」イニシアティブへの参加をご案内しております。

貴社が参画される意義

✓ これまでに得た注目やネットワークを持続的なステージへ昇華

- ✓ 現状まで培われてきた成長を、さらに持続的な価値を提供する企業としてアピール可能になります。

✓ **社会的評価・広報効果を最大化**

- ✓ 「持続的な活動へ貢献を惜しまない」企業姿勢を示す手段として、今後の営業活動や取引の場面をよりスムーズにする効果を目指しています。

*ご希望に沿って、サンゴ苗作りのみならず、植え付け活動等も企画可能ですので、お気軽にご相談ください。（料金は変動いたします）

戦略的CSR：サステナブル活動のイニシアティブ「うむしん11」へのご招待

「うむしん11」が提供する研修プログラム（カスタマイズ可能）

海の生態系保全や地域社会貢献を目的に、サンゴ苗作り、ビーチクリーン、アマモ植樹、農業体験、子ども食堂支援を実施。社員や地域住民の参加でSDGs達成に貢献できるプログラムをご提供。

プログラム名	内容	期待される効果・アピールポイント	関連SDGs
サンゴ苗作り活動*	専門家の指導のもと、海の生態系の基盤となるサンゴの苗を作り、植え付けの準備を行います。	海の豊かさを守る具体的なアクションとして、最も象徴的で発信しやすい活動です。	14
ビーチクリーン	海洋プラスチック問題の現状を学び、実際に海岸の清掃活動を行います。	社員全員で取り組める活動。企業の環境問題に対する真摯な姿勢を示せます。	14, 11
アマモ植樹活動	「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ場を再生するため、アマモの苗を植える活動です。	生物多様性の保全に直接貢献。より専門的でユニークな取り組みとして発信できます。	14, 15
農業活動	沖縄の伝統野菜の収穫などを通じ、食と農、そして環境の繋がりを学びます。	「食」という身近なテーマから、持続可能な社会について考えるきっかけになります。	12, 15
子ども食堂協力活動	地域の子ども食堂の運営をサポート。食材の提供や配膳、子どもたちとの交流を行います。	地域社会への貢献（コミュニティ投資）という側面を強くアピールできます。	2, 11

無料オプション：カヤック式ブレスト

面白法人カヤックの重役・スタッフ陣を講師として登壇し、御社のチームで自社の未来や新規事業についてブレストします。固定観念を打ち破るアイデアが生まれると好評です。

■ カヤック式ブレスト

サイコロを振って給与を決める「サイコロ給」や「うんこミュージアム」の企画など、既成概念にとらわれない発想力・企画力、形にしていく技術力を強みに、ゲームアプリや広告・Webサイト制作から地方創生まで日本的面白コンテンツを展開している面白法人カヤックの代表柳澤氏によるブレスト研修を通じて、多角的な視点をご提供。経営理念



Daisuke YANASAWA

柳澤 大輔

- ✓ 1974年香港生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、ソニー・ミュージックエンタテインメントに入社。
- ✓ 1998年、学生時代の友人と共に面白法人カヤックを設立。鎌倉に本社を置き、ゲームアプリや広告制作などのコンテンツを数多く発信。SDGsの自分ごと化や関係人口創出に貢献するコミュニティ通貨サービス「まちのコイン」は全国27地域で導入（2024年5月時点）。
- ✓ さまざまなWeb広告賞で審査員をつとめる他、サイコロを振って給与を決める「サイコロ給」など、会社という形の新しい可能性に取り組む。
- ✓ 著書に「鎌倉資本主義」（プレジデント社）、「リビング・シフト 面白法人カヤックが考える未来」（KADOKAWA）、「面白法人カヤック社長日記 2015年-2020年愛蔵版」ほか。金沢大学 非常勤講師、元・慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘教授、淑徳大学 地域創生学部 客員教授。「デジタル田園都市国家構想実現会議」構成員。

「うむしん11」の活用イメージ

サステナビリティに関する活動報告の事例（株式会社ビタブリッドジャパン）



地産に住む私たちは、自然のチカラをありがたうにいただくことで、明日のカラダをつくっています。そのチカラをもた消費するだけではなく、持続可能と見なされます。

例えば、魚のチカラをいたく健康食品においては、未活用魚のアラもカラダに役立つ程度に精製して（アップサイクル）製品化。その魚上の一部を海と魚の健康のためにも投資することで（還元）、持続可能な循環が生まれています。

同じように、私たちは2024年にカーボニュートラル活動の一環として、ブルーカーボンである昆布に着目。お客さまから頂いた売上の一部を利用して、昆布の育成によるCO2吸収、その昆布の配送資材活用などにトライしています（カーボウレジット認証への活動も進行中）。



「自然のチカラを、循環させる。」

山形県産天然昆布の生産者団体「ISe 山形」は、地元産品の販売促進や加工・製造・流通に関する取組を行い、消費者が安心して商品を購入できるように取り組んでいます。



また、「日本自然保護協会」へ寄付も続けています。

お客さまにご愛用いただいた製品の売上の一部から、その産地である海と大地に寄渡しができるプロジェクト「サステナブルサイクルプレゼント制度」。私たちの製品とお客さまのご購入行動が増えるほど、未来のより良いサイクルの一助になる仕組みをつくることで、お客さまと共に持続可能な未来を目指しています。



戦略的CSR：サステナブル活動のイニシアティブ「うむしん11」へのご招待

過去の「うむしん11」における活動

2025年8月24日にFC琉球OKINAWAと協働でクリーンアップ活動およびサンゴ苗作り体験イベントを琉球うむしん株式会社主催で実施。

2025年8月24日に実施したプレ活動

